

・著者の経験談

婚活を始めようと思った時に、データマッチング型結婚相談所に行きました。会員登録も完了しないうちから、結婚相談所の端末機で会員検索をさせてもらいました。年齢と年収、居住エリアだけを入力したと思います。私の希望条件に適合した会員は六〇〇人近く。「そんなにいるんだ」と驚いたのを覚えています。

私が婚活で初めて交際にいたった人は、一部上場企業にお勤めの同い年の方でした。平均以上の年収を得て、離婚から一年足らず。ルックスもまあまあ。内心、「出会うのがもう少し遅かったら、他の人に取られていたかも。私は幸運だった」と思ったほどでした。なぜか先方は結婚を急いでいて、交際一ヶ月でプロポーズ。返事もしないうちに、わが家に遊びに来ました。さらに、その一ヶ月後には先方の家族を紹介されました。

お見合いというものをしたことがなかった私は、初めから結婚が目的という婚活での出会いだとかこういうものなのかしらと思いながら、息せき切って彼についていくという感じだったのを思い出します。しかし、交際から五ヶ月ほど経った頃、ふと妙な違和感に襲われました。彼には友人と言える人が一人もいなかったのです。それだけでなく、私がサークルや習い事、友人たちとの集まりに出かけることを嫌いだしたのです。前の結婚で奥さんと休日をどのように過ごしていたのか聞いてみました。一人でスポーツジムに行くか、夫婦ですべて別々のゲームをしていたと言います。「この人とはうまくいかない」と思って、交際をやめました。あとでこのことを聞いた友人の一人が「友だちがいないぐらい何よ」と言うのですが、当時の私には由々しき問題のように思えました。今の私にとっても軽視できない価値観の違いです。

その他にも、前の結婚が妻への暴力が理由で調停ではなく裁判に訴えられて離婚が成立した人（こうしたことは、もちろんプロフィールには記載されていません）や、デートの日にはいつも社員を待機させておき、夜、私を家まで送る車の運転に呼び出していた「公私混同」の中小企業の経営者なども出会いました。自身はブランドもので身を固めながら、前の結婚でできた娘さんを児童相談所に預けたままだという経営者もいました。これらは極端な例にしても、こうした人たちも含めての六〇〇人なのだとということです。

婚活を始めたばかりの頃は、大きな期待を抱きます。特にインターネット型結婚情報サービスでは、会員登録したばかりの頃は「待ってました」とばかりに多くの会員から申し込みを受けます。長期間利用している会員にとっては、申し込んだり申し込まれたりという動きが少なくなっているのです。新規会員を常にチェックしているのです。その瞬間「モテている」ような錯覚にとらわれるかもしれません。もちろん、そのなかに希望に合う素敵な人がいて、交際に進む「ビギナーズブラック」もあると思いますが、人間のこういう時の心理として、「最初からこんなに素敵な人がたくさん現れたのだから、もっと他にもいい人がいるかも」と思うものです。さて、その通りかどうか。あとでじっくり探したからといって、どんどん条件が良くなることはほとんどないことはここに断言しておきましょう。こうして、婚活にかかる最初の期待が大きければ大きいほど、あとの失望も大きくなり、それが婚活疲労となって現れるのです。

・ショッピングと同じ

いい男は、正価で売れていきます。バーゲンまで残っているものも、いいものから初日に売れていきます。いつまでも四〇代の婚活市場に残っているのは、何らかのキズや汚れがあるものか、あまりに個性的で着回しのきかないデザインのものか、誰も手をつけなかったものか、さっきまでは誰かが買おうと思って抱えていたのを、会計前に「やっぱり、やめた」と手放したものか。あるいは、一度は売れたけど返品されてきたものかもしれない。それが、アラフォーで婚活をスタートさせた私の正直な印象でした。

最も気をつけたいものが、キズや汚れのあるものでした。そこはしっかりチェックしておきたい。小さい汚れだと見落としてしまう可能性だってあるし、本人が意図的に隠しているケースもあります。